

小単元名 p.20～29	①わたしたちのくらしと 商店	小単元 の目標	地域の販売に関する仕事について、私たちの生活を支えていること、仕事の特徴及び国内の他地域との関わりなどを調べ、仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。
-----------------	-------------------	------------	---

つ
か
む

p.20～23

◎ 買い物調べをしよう。

- 買い物について振り返り、紹介し合う。
 - ・日頃どんな店で、どんな物を買っているのかについて紹介する。
デパート、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、商店 など
 - ・どこにどんな店があるか地図上で確かめる。
学区内、学区外、校外
- 買い物調べの結果をまとめ、分かったことを話し合う。

買い物調べを表やグラフに
すると分かりやすいね！

お客さんはいろいろある店を
どのように利用しているのだろう！

学習問題

スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょうか。

調
べ
る

p.24～25

◎ スーパーマーケットの見学

- ・スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まる秘密を調べて、見学カードに記入する。
(働く人、表示、商品、設備)
- ・店員さんにインタビューする。
(工夫、気を付けていること、願い)
- ・見学カードやインタビューの仕方を指導する。

p.27

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

- ・見学して見つけたスーパーマーケットの工夫を多様な表現でまとめる。
- ・新聞、紙芝居、ペープサート、ポスター

p.26

◎ まちの人々とともに

- ・スーパーマーケットが行っている工夫を紹介し合い、工夫について考える。

p.28～29

◎ いろいろな店と
これからの買い物

- ・買い物で気を付けること
- ・買い物をするときの店の選び方

教科書の
活用

- 教科書、副読本の両方の事例を取り上げることで、自分たちの地域のいろいろな店との類似点、相違点を見付けることができる。
- 見学の仕方、ワークシートのまとめ方、インタビューの仕方などの学び方を身に付けることができる。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、販売の仕事と自分の生活との関わり、販売の仕事の特色と他地域との関わりなどを調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えることである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは、生産と消費である。児童にとって身近な消費活動の様子を取り上げながら学習を進めていくとよい。

本文・写真「買い物調べをしよう」

事前に、家庭での「買い物調べ」や取材活動を行わせたい。
また、写真を取り上げ、買い物への興味・関心を高めたい。

図「白地図と商店の写真」

まち探検の際、それぞれの地域にある商店の写真撮影して授業で提示するなど、実感を持って探検活動に臨むことができるようにする。
また、まち探検で作成した地図上に店の場所を示し、学校との位置関係、住宅地や通りとの関係などにも着目させる。



図「買い物調べ」

レシートや1週間の買い物調べを基に、買った物や買った店などを分類した絵グラフにまとめさせる。
3年生という発達段階から、大型の絵グラフが捉えやすい。
*絵は買い物の回数を表している。

小売店

卸業に対し、販売を目的とした店舗を「小売店」という。このグラフでは、その中でも特定の品物を専門に販売している商店を、スーパーマーケットと区別している(肉屋や魚屋など)。3年生にとってなじみの薄い言葉であるので説明するとよい。

グラフ「買い物をする店調べ」

各自が調べてきたことを学級でまとめてみるとよい。地域の買い物の様子が分かる。
●を使ってまとめることで、棒グラフの読み取りにもつなげていきたい。

通信販売

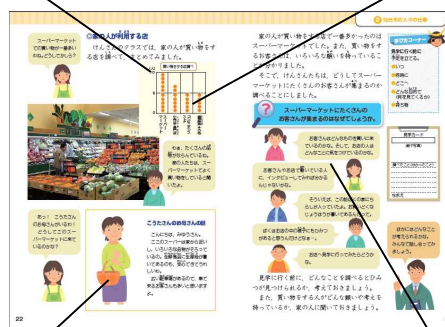
小売業態のうちの無店舗販の一つで、消費者から通信手段で注文を受け商品を販売する。
近年はインターネットの普及に伴い、ウェブサイトから注文を行う消費者もいる。

本文「こうたさんのお母さんの話」

お母さんの話から、身近な人が「普段の買い物で気を付けていること」を読み取らせる。
店の工夫についても気付かせていきたい。

キャラクターの吹き出し
「お店の人はどんなことに気を付けているのかな」

見学を行う前に、「お客さんが集まるわけ」について「気を付けていること」「工夫していること」などの視点を与え、予想を立てさせる。見学に向けて、意欲付けを図ることが大切である。



写真「スーパーマーケット」

ここでは可能な限り、見学を取り入れた学習活動を工夫する。見学に際し、前もって店に見学の観点を知らせ、見学内容、経路等を決めておく。

キャラクターの吹き出し

キャラクターの発見や疑問が自分たちの見学のどの観点と結び付いているか考えさせる。また、店の中だけでなく、普段は見られない店の裏側でも、多くの人たちが働いていることや様々な工夫があることに気付かせたい。

本文「店長さんの話」

買う側の「お母さんの話」に対し、売る側の「お店で働く人」にインタビューし、店の工夫について調べさせる。可能であれば買い物に来ている人にもインタビューをし、それぞれの工夫について比べさせたい。

図「店内の様子」

見学の際には、商品の並べ方や配置の仕方に工夫があることに気付かせたい。あらかじめ見取り図などのワークシートを準備し、書き込ませるとよい。



写真 まちのひとびととともに
本文 「店長さんの話」

スーパーマーケットやショッピングセンターなど多くの人たちが利用する店では、様々な人が利用しやすいよう工夫がなされていることに気付かせたい。また、買う人の思いや考えが、店の工夫に生かされていることにも気付かせることが大切である。

写真「発表会」

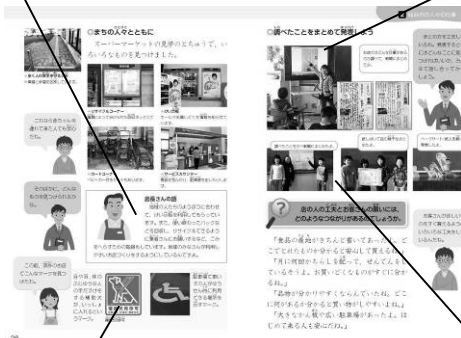
これまで学習したことをグループごとにまとめ、発表会を行う。学習内容に応じて、適切な発表方法を教師側が押さえておきたい。分かったことや考えたことが、分かりやすく表現できるように支援したい。

補助犬マーク

- ・盲導犬マークが介助犬等を含む補助犬マークに変わっている。

発表例

- ・デジタルテレビを使っでの説明
- ・壁新聞にまとめた発表
- ・紙芝居での発表
- ・ペープサートでの発表



本文・写真 「いろいろな店とこれからの買い物」

地域によっては前述のような商店を扱えない場合があるので、郊外の大型店や複合型商業施設、コンビニエンスストアを題材にすることも考えられる。

また、児童の興味・関心や地域の実態を考慮しながら取扱いを検討する。

キャラクターの吹き出し

消費者として条件に合った店や購買方法を選ぶことが大切であることを考えさせる。

仙台市消費生活センター TEL022-268-7867

消費者が情報を正しく理解し、主体的に選択し契約ができるように、また、安全で安心な消費生活を送ることができるように消費者支援を行っている。消費生活に役立つ情報を提供するとともに、講座の開催、パネルやビデオの貸出しも行っている。

ほかにも、消費生活上のトラブルについて相談を受け、解決に向けた手伝いを行っている。

リサイクルに関するマーク <グリーンマーク>

古紙再生利用の紙製品に付けられたもの。(財)古紙再生促進センターが、経済産業省指導の下、実施している。

<PET ボトルリサイクル推奨マーク>

PET ボトルリサイクル推進協議会で再商品化された商品にマーク使用を認可している。PET ボトルからのリサイクル商品であることを示している。

<エコマーク>

(財)日本環境協会が実施しているマーク。商品を消費または廃棄する際、環境に負荷が少なく環境保全に役立つと認められる商品に付いている。

<せんだいグリーン文具マーク>

仙台市が定める環境配慮基準を満たす文具に付けられたもの。仙台市のホームページでも紹介されている。



【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、仙台市内で作られている工業製品や農作物が、主にどこで作られているのかを把握し、今後の学習に向けて課題意識を持たせることである。②A「わたしたちの暮らしと工場の仕事」、②B「わたしたちの暮らしと農家の仕事」の2小単元の導入となる学習である。

<北部>

写真「泉パークタウン工業・流通団地」

絵と関連させながら、泉区近辺には、本や新聞、かまぼこなどを作る工場があることに着目させる。

<西部>

地図記号や絵と関連させて稲作や野菜作りが盛んであることに着目させる。

西部には、ウィスキー工場もある。

<東部>

写真「岩切地区の仙台曲がりねぎ畑」

地図記号や絵と関連させて、宮城野区の港近辺には、かまぼこやビールなどの工場が多いことに着目させる。港や道路との関連にも気付かせる。

岩切の「曲がりねぎ」も有名である。

<東部・南部>

地図記号や農作物の絵と関連させて、農業が盛んであることに着目させる。

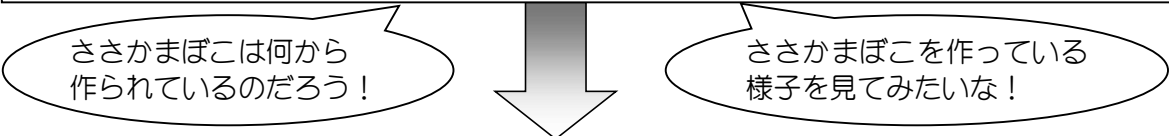
南部にはゴムの工場もある。



小単元名 p.32～37	②選択A わたしたちのくらしと 工場の仕事	小単元 の目標	地域の生産に関する仕事に関心を持ち、自分たちの生活との関わりを見付けたり、生産・販売に見られる仕事の特色について調べたりして、それらの仕事に携わっている人々の工夫について考えることができる。
-----------------	-----------------------------	------------	---

つ
か
む

p.32
◎ ささかまぼこについて話し合おう
・仙台の特産物であるささかまぼこの種類などについて取り上げ、関心を高める。
・グラフを活用して、宮城県はささかまぼこが有名であることを知る。



学習問題
工場では、どのようにしておいしいささかまぼこをつくっているのでしょうか。

調
べ
る

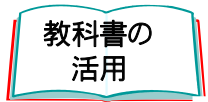
p.34～35
◎ かまぼこ工場を見学しよう
観点別に、児童が学習課題を立てるためのワークシートなどを事前に記入させてから見学させる。
*観点の例

<原料の工夫について知りたいこと>	<歴史について知りたいこと>
<つくり方の工夫について知りたいこと>	<ゆくえについて知りたいこと>
<働く人の工夫について知りたいこと>	

*工場見学ができない場合は、蒲鉾店のwebページを活用することも可能である。

ま
と
め
る

p.36～37
◎ 調べたことをまとめて発表しよう
ささかまぼこについて、調べて分かったことをグループごとにまとめ、発表を聞きあつて意見を交流させる。
<グループでテーマを決めて、調べたことをもぞう紙にまとめよう>
・ささかまぼこについて調べるテーマをグループで一つ決めさせる。
・児童一人一人がテーマに沿って調べ、絵や写真を交えながらカードにまとめさせる。
・レイアウトなどを工夫しながら、グループごとにカードを模造紙に貼ってまとめさせる。
・模造紙を使ってグループごとに発表し、意見を交流させる。
◎ 学習問題に対する自分の考えをまとめよう
これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。
<学習問題について分かったことを、ノートに書いてみよう>
・原料やつくり方など、ノートにまとめてあることや、各グループの模造紙の内容などを手掛かりにして書かせる。



○教科書にも仙台市のささかまぼこ工場が大きく取り上げられている。副読本と併用して授業を展開することで、調べる際の資料とすることができる。

※「1年間に作られるかまぼこの量」は、2011年の統計調査では宮城県は全国で1位の生産量でしたが、震災の影響で2012年には7位に落ち込みました。その後、原料となる魚の漁獲量の回復や、生産ラインの復旧などにより、平成27年度は全国5位の生産量となっています。

【小単元の指導に当たって】

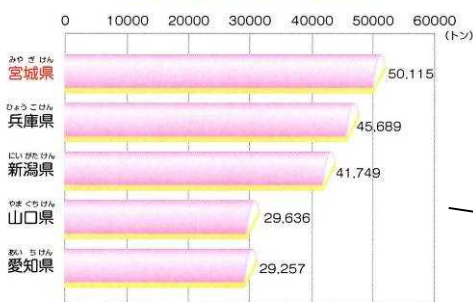
本小単元のねらいは、生産と消費の仕事に携わっている人々の工夫を考えることである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは、生産と消費である。児童にとって身近なかまぼこを生産する仕事を取り上げ、原料や作り方、製品の流通、他地域とのかかわりなどを調べ、携わる人々の工夫について考えさせていく。

グラフ「1年間に作られるかまぼこの量」

生産量を実感として捉えさせるためのグラフである。

仙台市の贈答品では、ささかまぼこが主力商品になっている。各家庭での消費より、おみやげなど贈答品としての利用が多いことを補足説明する。

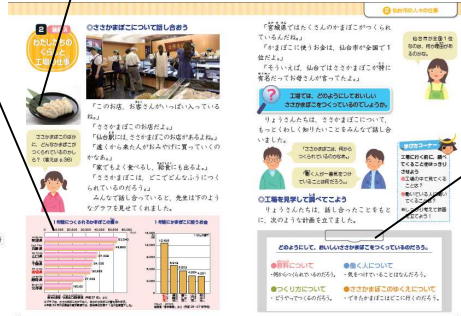
1年間に作られるかまぼこの量※



※グラフは、ささかまぼこだけでなく、ほかのかまぼこの量も含みます。

写真「ささかまぼこ」

仙台の特産物であるささかまぼこを導入で取り上げ、興味・関心を高めたい。



*情報コーナー

阿部笹蒲鉾工場
022-222-6455
鐘崎笹蒲鉾工場
022-231-5241

図「ささかまぼこについて調べてくること」

観点を絞って、調べることを具体的に考えさせるとよい。

参考資料「1年間につくられるかまぼこの量」(2011年同調査より)

東日本大震災により多くの蒲鉾工場が被災したため、2011年までは生産量第1位であった宮城県が、2015年では第5位に下がっていることを補足する。その際、左のグラフを活用するとよい。

本文「原料について」

すけとうだらは、北洋の船上ですりみに加工される。きちじは、石巻の水産会社と契約して確保している。ひらめは養殖ひらめを使用し、コストを抑える企業努力をしている。いとよりだいは、南洋で捕獲され、すりみに加工され送られて来る。このほかに、真鯛もオーストラリアから空輸されて使われる。

写真「かまぼこができるまで」

手作業で行われる作業と機械で行われる作業があることに気付かせたい。
※すり身の状態で仕入れることが多く、身おろしは工場ほとんど行われていない。

本文・写真「工場で働く人の様子」

「一番気を付けていること」が衛生面なのはなぜか考えさせたい。写真やイラストの工夫のほかに、温度や湿度の管理や消毒、換気、製品チェックなど様々な配慮がされている。



写真「販売している場所」

どんなところで販売しているのか、写真を通して考えさせるとともに、立地条件についても話し合わせると良い。
(左から、国道沿いの店舗、JR仙台駅構内の店舗)

※情報コーナー

阿部笹蒲鉾店
<http://www.abekama.co.jp>

写真「個人で調べたことをまとめたカード」

グループで設定したテーマに沿って、児童一人一人が調べたことをカードにまとめさせる。
まとめさせる際には、絵や写真などを交えながら、分かりやすく書かせる。

写真「模造紙を使った発表」

模造紙を使ってグループごとに発表させ、気付いたことや感想を話し合わせる。
多様なまとめ方に触れさせることで、多面的な見方を身に付けさせていきたい。



写真「カードを貼付した模造紙」

グループごとにカードを貼付した模造紙を作成し、発表する際に資料として活用させたい。
設定したテーマについて分かりやすく伝えることができるよう、カードの貼り方などを工夫させる。

写真「学習問題についてまとめたノート記述」

学習問題は、授業の際、常に児童の目に触れる場所に掲示し、課題意識を持って学習に取り組ませるようにする。単元の終末として、これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。

小単元名 p.38～41	②選択B わたしたちのくらしと 農家の仕事	小単元 の目標	地域の生産に関する仕事に関心を持ち、自分たちの生活との関わりを見付けたり、生産・販売に見られる仕事の特色について調べたりして、それらの仕事に携わっている人々の工夫について考えることができる。
-----------------	-----------------------------	------------	---

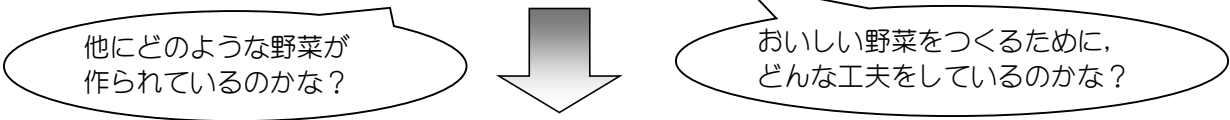
つ
か
む

p.38

◎ わたしたちの市でつくられる野菜を調べよう

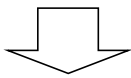
- ・学校給食を活用して、地区の生産物への関心を高める。
- ・「仙台曲がりねぎ」「仙台白菜」「仙台雪菜」などの特産物を紹介する。

※仙台あおば餃子：仙台雪菜を皮に練り込んだもの



学習問題

農家ではどのようにして、おいしい野菜を作っているのだろう。



調
べ
る

p.39

◎ 農家を見学して調べてこよう

学校から近い農家を見学したり、農家の方を学校の畑に招いたりして、インタビューをさせる。

★農家の方にインタビューしたい内容など観点を事前に考えさせる

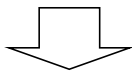
例)

- ①作り方の工夫について
- ②土づくりの工夫について
- ③収穫について
- ④農家の方の思いについて

p.40, 41

◎ 野菜作りの工夫を調べよう

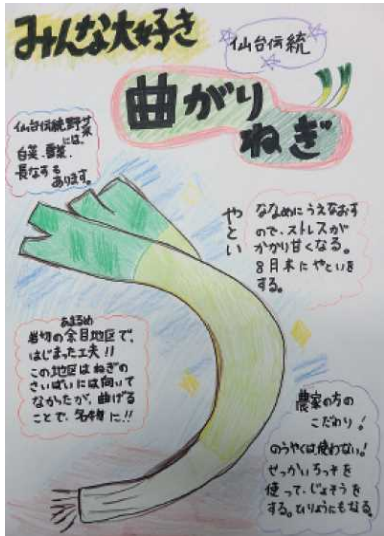
- ・農家の方へのインタビューを通して、さらに調べたくなかったことを挙げさせ、調べていく。
- ・地区の生産物について調べる。
- ・給食のリサイクルについて、写真を見て理解させる。
- ・生ごみ減量のために仙台市がどのような活動を行っているか触れる。



ま
と
め
る

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

- ・作製にあたっては、農家の見学や調べ学習で分かったことを生かしたり、写真を使ったりするよう指導する。
- ・お世話になった農家の方にも見せるようにし、相手意識を持って作製させたい。
- ・地元の野菜を使った新しい特産物を考えるなど、児童の工夫を生かして活動をさせても良い。



- 教科書では、見学の仕方について、「かんさつする」「しつもんする」「ふれる」「きろくする」と分けて具体的に記されているので活用したい。
- 教科書でも、仙台曲がりねぎづくりの工夫について詳しく記されているので、併せて活用したい。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、農家の仕事の特徴や他地域との関わりを調べ、それらの仕事に携わる人々の工夫を考えることである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは、生産と消費である。ここでは岩切地区を取り上げているが、学校から近い農家を見学し、その地区の生産物を調べるとよい。

写真「仙台伝統野菜」

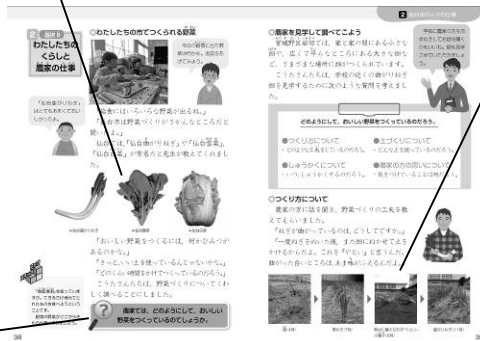
仙台の気候や風土に適した野菜として古くから栽培されてきたもの。他にも、仙台芭蕉菜、仙台長なすなどがあり、児童の関心を高めるために取り上げたい。

本文「やとい」

岩切地区は、地下水位が高く、ねぎの栽培には不向きであった。しかし、このデメリットを逆手にとって生まれたのが「曲がりねぎ」である。先人の知恵と努力や、地域の農家の工夫を取り上げたい。

学習課題

作り方や土づくりの工夫など、次ページの観点とリンクさせて学習問題を設定させるとよい。



写真「野菜市」

生ごみ減量のために、仙台市がどのような活動を行っているかを発展的に調べるのもよい。

写真「発表しよう」

農家の方の仕事が自分たちの生活を支えていることを確認しながら、まとめる活動をさせたい。

写真「給食のリサイクル」

循環型農業と給食の関係を分かりやすく示すための図。生ごみ処理機がない学校では、コンポストや家庭用生ごみ処理機など、家庭で行っている生ごみの堆肥化について触れるとよい。

本文「農家の方の話」

ここでは販売の工夫について話している。消費者のことを考えて販売の方法を工夫しているところを読み取らせる。

